第 11 講　貿易と国際収支

1　国際分業と貿易

①**国際分業**⇔自給自足経済

A　**水平的分業〔水平貿易〕**

先進工業国間での工業製品どうしの交換。

※多国籍企業の発展途上国への本格的進出と途上国の工業化に伴い，世界的に水平貿易化が進んでいる。

B　**垂直的分業〔垂直貿易〕**

先進工業国と発展途上国間での工業製品と一次産品（原材料や食料）や部品の交換。

※垂直的分業が続くと，NIES〔新興工業経済地域〕と産油国を除く発展途上国は，**モノカルチャー経済**から抜け出せない。

C　貿易類型の多様化

国境をまたぐ同産業内での**工程間分業**や，多国籍企業の本社と他国の子会社との**企業内貿易**が増えるなど，貿易類型は多様化してきている。

②**貿易**

16 世紀～ 18 世紀の**重商主義**の時代には，金・銀を獲得するため関税賦課（ふか）や輸入制限などの**保護貿易**政策がとられてきた。これに対し，18 世紀後半に産業革命を達成して先進国となったイギリスでは，貿易に対する国家の介入（かいにゅう）をやめ，自由貿易を行うことこそが利益になると主張された。

A　**自由貿易論**

リカード（**英**，1772 年～ 1823 年）が『経済学および課税の原理』の中で唱えた**比較生産費説**は，**自由貿易**の効用と**国際分業**の利益を説き，自由貿易政策に理論的根拠を与えた。

※２国が得意分野の生産に**特化**〔特定化〕し，不得意分野は貿易をしたほうが，資源・労働力・資金面で双方に利益をもたらすとした。

※先進工業国に有利な論だが，輸入品が急増すると失業問題が生じる恐れもある。

B　**保護貿易論**

リスト（**独**，1789 年～ 1846 年）の**経済発展段階説**は，国が輸入規制・輸出支援を行う**保護貿易**を説いたもの。各国の産業発展には差異があり，後進国の工業化には幼稚産業の保護・育成が必要とした。

〈***Note***〉

２　貿易のあゆみと現状

①世界貿易のあゆみ

A　戦前

世界恐慌後，資本主義国が**ブロック経済**（保護貿易）を形成し合い対立が激化，第二次世界大戦へ。

B　戦後

IMF・GATT 体制〔ブレトン・ウッズ体制〕の下で，自由・無差別・多角貿易が行われ，先進国の貿易額は伸びたが途上国は伸び悩む。

②日本の貿易→ 2018 年の統計

A　**世界の貿易総額**の割合

１位中国・２位アメリカ・３位ドイツ・４位日本・５位オランダ

※一人あたり貿易額は香港が１位。

※貿易依存度も香港が１位。

B　**日本の輸出相手国**

１位中国・２位アメリカ・３位韓国・４位台湾・５位香港

C　**日本の輸出品**

１位機械類・２位自動車・３位自動車部品・４位鉄鋼・５位プラスチック

D　**日本の輸入相手国**

１位中国・２位アメリカ・３位オーストラリア・４位サウジアラビア・５位韓国

E　**日本の輸入品**

１位機械類・２位原油・３位液化ガス・４位衣類・５位医薬品

〈*Note*〉

3　国際収支

ある国の一定期間（通常は一年間）における対外取引を，貨幣額の収支決算（帳簿（ちょうぼ））の形で体系的に示したもの。**2014年に新統計方式となった。**

※国際間の経済取引は，一般に国際通貨〔基軸（きじく）通貨〕であるドルや，他にもユーロ，ポンド，円でも決済は行われる。

①国際収支表

国際収支表は「**経常収支＋資本移転等収支－金融収支＋誤差脱漏（ごさだつろう）＝0**」となっている。

A　**経常収支**

資金が自国に入ってくる場合をプラス（黒字），外国へ出て行く場合をマイナス（赤字）で表す。

あ　**貿易・サービス収支**

1　貿易収支

財の**輸出**が多ければ黒字，**輸入**が多ければ赤字となる。

2　サービス収支

外国に提供するサービス（輸出）が多ければ黒字，日本が受けるサービス（輸入）が多ければ赤字となる。

※特許権や著作権など知的財産権を含む。

い　**第一次所得収支**

日本の**賃金・配当金・利子など**の受け取りが多ければ黒字，外国への賃金・配当金・利子などの支払いが多ければ赤字となる。

1　雇用者報酬

2　投資収益

3　その他第一次所得

う　**第二次所得収支**

日本の**援助金や拠出金**が多ければ赤字，外国からの援助金や拠出金が多ければ黒字となる。

※食料や医薬品など消費財の無償援助や国際機関への拠出金，個人間移転（労働者送金など）。

B　**資本移転等収支**

対価を伴わない（固定）資産の移転の取得処分についてまとめたもの（発展途上国の**社会資本への無償援助**〔円借款（しゃっかん）〕など）。金額は小さい。

C　**金融収支**

対外資産・対外負債ともに，増加する場合はプラス（黒字），減少する場合はマイナス（赤字）で表し，対外資産と対外負債の差額が金融収支となる。

あ　**直接投資**

現地生産のため工場や会社を設立したり，**経営権取得のため**外国企業の株式を取得する投資。

い　**証券投資**

配当金や利子収入を目的に，外国企業の株式や外国の債券を取得する投資。

う　金融派生商品〔デリバティブ〕

先物（さきもの）取引や金融スワップ取引など。

え　その他投資

お　**外貨準備**

政府や通貨当局が利用・調整できる対外資産（外国通貨や金）。

D　**誤差脱漏**

統計上の誤差や漏（も）れ。

②国際収支と経済・政治摩擦

A　戦後日本の国際収支

あ　高度経済成長前（1945 年～ 54 年）

経常収支は赤字基調。ドッジ・ライン（1949 年）や特需景気（1950 年～ 53 年）により経済復興が達成された。

い　高度経済成長期前半（1955 年～ 64 年ごろ）

好況が続くと原材料の輸入が増え，外貨準備が底をつき経常収支が赤字となる。そのため，金融引き締めにより景気を後退させ，不況になると経常収支が黒字になるという「**国際収支の天井**」状態が続いた。

う　高度経済成長期後半（1965 年ごろ～ 73 年）

日本の国際競争力が高まり，輸出が拡大すると貿易黒字が定着し，経常収支の黒字基調が続いた。

え　1980 年代以降

二度の石油危機を乗り切った日本は巨額の貿易黒字となり，欧米諸国との**貿易摩擦**を招いた。

※ **2011 年以降は貿易赤字**となり，2016・17 年は黒字化したが，2018・19 年は再び赤字となり，経常収支の中では**第一次所得収支の黒字**が重視されている。

B　アメリカの国際収支

東西冷戦やベトナム戦争もあり，1960 年代後半から経常収支の赤字が拡大し，世界最大の債務国に。1980 年代前半には経常赤字＋財政赤字の「**双子**（ふたご）**の赤字**」に苦しみ，ドル安へ誘導する協調介入であるプラザ合意（1985 年）へとつながった。

C　外貨準備高

政府や中央銀行が保有している対外決済手段としての外国通貨（円・ユーロ・人民元など）と金などの準備資産。日本は 1993 年以降世界第一位だったが，2006 年以降は中国に抜かれている。

D　**経済摩擦・政治摩擦**

国際収支の不均衡は経済摩擦を生み，それが政治摩擦につながる。世界経済の安定には国際収支の均衡がある程度必要。

〈 ***Note*** 〉

４　外国為替（かわせ）⇔内国為替

遠隔地間で**現金を用いず**輸出入などの国際間取引・国際資金移動の決済（＝債権と債務の決済）を行う方法・手段。

※国際間の取引は，かつて金により決済されたが，現在では**外国為替手形**を用い決済するのが一般的。

①外国為替市場

外国為替市場は株式市場のように取引主体が一堂に会するわけではなく，**インターバンク市場〔銀行間市場〕**と対顧客市場に分かれている。

※ニューヨーク・ロンドン・東京が三大市場。その他，ヨーロッパ大陸市場などもあり，時差の関係で，すべての時間，世界のどこかで必ず取引が行われている。

②外国為替相場〔外国為替レート〕

異なる外貨の交換比率のこと。相場の変動幅を一定枠内に固定した**固定相場制**と, 相場を外国為替市場の需要と供給の変動（市場メカニズム〔価格メカニズム〕）に委（ゆだ）ねる**変動相場制**がある。

※たとえば円の需要が多ければ，「円買い」が進み価値が上がり**円高**となる。逆に円の供給が多ければ，「円売り」が進み価値が下がり**円安**となる。

③外国為替相場変動の要因

貿易に伴う通貨の交換以上に，資本移動に伴う通貨交換が大きな要因となっている。また近年は，為替差益を狙った投機的資金やヘッジファンドのような短期的な資金の動きも大きな影響を与えるようになっている。

A　**ファンダメンタルズ**説→長期的要因

各国の経済成長率や物価・金利水準，国際収支動向を示す**ファンダメンタルズ**〔経済の基礎的条件〕の健全さに応じて変動が生じると考える説。

B　**内外金利差**要因説

各国間で金利差が広がれば投資による資金の移動が生じると考える説。

C　**購買力平価**（こうばいりょくへいか）説

物価水準の国際的な格差（内外価格差）から決まる理論上の為替相場（＝**購買力平価**）に応じて相場が定まると考える説。

D　国際収支説

国際収支の黒字・赤字に応じて変動が生じると考える説。

E　その他

各国の金融政策，通貨当局の為替介入，ヘッジファンドによる為替投機など。

④為替相場と貿易

為替相場の変動は国際収支の均衡をはかる機能をもつ。貿易黒字国の通貨が外国為替市場で上昇すると，輸出品価格が上昇して輸出は減少し，貿易黒字の減少となる。

※為替レートの乱高下（らんこうげ）を防止するため，各国の**通貨当局**（日本の場合は財務省の資金を使う**日本銀行**）がインターバンク市場に**公的介入**〔**外国為替平衡操作**（へいこうそうさ）〕し安定化や誘導をはかることがある。

⑤戦後の円相場の動き

A　**円高**

他の国の通貨に対し**円の価値が高くなること。輸入に有利で輸出に不利。**

B　**円安**

他の国の通貨に対し**円の価値が安くなること。輸入に不利で輸出に有利。**

1949 年　**１ドル＝ 360 円**の**固定相場制**スタート→ドッジ・ライン

※ブレトン・ウッズ体制

1971 年　アメリカが金・ドルの交換を停止→ドル・ショック

１ドル＝ 308 円に→スミソニアン・レート

※スミソニアン体制

1973 年　変動相場制スタート

※キングストン体制

第一次石油危機〔オイル・ショック〕

1985 年　プラザ合意→ドル高是正の協調介入

1987 年　ルーブル合意→為替相場安定

ブラック・マンデー（米）→株価大暴落

1992 年　欧州通貨危機

1993 年　クリントン大統領（米）による円高容認発言

1995 年　戦後初の１ドル＝ 79 円台に

1997 年　アジア通貨危機→タイのバーツ切り下げ

1998 年　ロシア通貨危機

2005 年　中国の人民元切り上げ

2008 年　リーマン・ショック（米）→株価大暴落

2010 年　ギリシャ財政危機

2011 年　東日本大震災

11 月に戦後最高値（さいたかね）の１ドル＝ 75 円 78 銭に

2015 年　再度のギリシャ財政危機

〈 ***Note*** 〉

第11講　確認テスト

1　次のうち，現在，世界的に進行しているのは？
①水平的分業化〔水平貿易化〕　②垂直的分業化〔垂直分業化〕
③保護貿易化　④ガラパゴス化

2　経済発展段階説を唱え，保護貿易の必要性を説いたリストはどこの国の学者か？
①イギリス　②フランス　③ドイツ　④アメリカ

3　貿易総額世界第1位の国とは？
①中国　②アメリカ　③ドイツ　④日本

4　日本の輸出第1位の品目とは？
①機械類　②自動車　③鉄鋼　④自動車部品

5　日本の輸入相手国第1位の国とは？
①中国　②アメリカ　③オーストラリア　④サウジアラビア

6　次のうち，経常収支の内訳としてふさわしくないものを選べ。
①貿易・サービス収支　②第一次所得収支
③第二次所得収支　④資本移転等収支

7　高度経済成長期の前半に見られた，好況が続くと原材料の輸入が増え，外貨準備が底をつき経常収支が赤字となるため，金融引き締めにより景気を後退させ，不況になると経常収支が黒字になるという状態を何といったか？
①産業構造の高度化　②産業の空洞化
③国際収支の天井　④消費革命

8　外国為替市場の三大市場としてふさわしくないものを選べ。
①ニューヨーク　②ロンドン　③東京　④モスクワ

9　各国の経済成長率や物価・金利水準，国際収支動向を示す「経済の基礎的条件」をカタカナで何というか？

①ベーシック・インカム　②ファンダメンタルズ

③ヘッジファンド　④ブラック・マンデー

10　インターバンク市場に公的介入する，日本の「通貨当局」として最もふさわしいものを選べ。

①財務省　②金融庁　③日本銀行　④会計検査院

11　戦後最高値（さいたかね）の1ドル＝75円78銭となった年の出来事とは？

①第一次石油危機　②プラザ合意

③リーマン・ショック　④東日本大震災

解答

1	①	2	③	3	①	4	①	5	①	6	④
7	③	8	④	9	②	10	③	11	④		